

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 アメリカ短期看護研修助成

## 研修報告書 (2016年度 助成者)

作成日 2016年11月11日

氏名 (フリガナ)	佐藤 裕恵 (サトウ ヒロエ)
研修地	アメリカ・オレゴン州ポートランド市
研修期間	2016年10月9日(日)～10月15日(土)
所属機関名 身分	医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院 看護部長

今回、平成28年10月9日から15日までの7日間のアメリカ短期看護研修に参加させていただきました。私は海外が初めてだったため、7日間の研修は長い研修期間だと思い参加しました。実際参加して、初日のスケジュールは私の年齢には少々きつめでしたが、見ることも聞くことがとても新鮮であったという間の7日間でした。

ポートランドの病院で働く日本の看護師の話聞き、アメリカと日本の医療の仕組みがまったく異なるものであることや看護師の役割や段階別の資格の違いとその業務内容の違いなどを学ぶことができました。

見学ではプロヴィデンスセントヴィンセントメディカルセンターで世界基準のマグネットホスピタルについてレクチャーを受けました。日本における看護師のライセンスとアメリカのライセンスの違い、プロ意識の違いをととも感じました。

プロヴィデンスポートランドメディカルセンターではオレゴンでの急性期脳卒中ケアについてレクチャーを受けました。脳卒中治療は時間が大切です。広大なアメリカでの地域連携医療のシステムが構築されており、コア病院での治療フローが地域の病院へしっかり伝達されそれが実施されており、とても素晴らしいと思いました。日本でも産科医療では医師不足のため、遠隔治療や連携がとられています。その他の診療科では地域パスなど課題が多い状況です。この先地域包括ケアに向けての動向がありますが、見学して、いかに日本のシステムがまだ遅れているかということと今後の課題でもあることを再認識しました。

OHSU 付属ドーンベッカー小児病院では日本には少ないチャイルドライフスペシャリストという職種についてレクチャーを受けました。子供の目線に立ち、精神的不安の軽減と今後の発達にはとても重要な役割を持つ職種であると思いました。また、ドッグセラピーとしてラブドールが飼われており、患者主体の医療、ケアがされていると感じました。

私の勤務している徳洲会グループは世界基準の JCI を取得している病院が数カ所あります。今後建て替えていく病院は数十年後を見据えたハードを備えて建て替えていく計画です。当院も老朽化しているため、近い将来建て替えを計画しています。そのようなこともあり、アメリカの病院はどのようにハード面を工夫しているのかということも興味を持っていました。どの病院もセキュリティ対策がされてありました。しかし、それが前面に出すぎて冷たいイメージにはならないように採光や家具、掲示物など高級ホテルに似たような癒やしのある構造でした。また、安全対策では薬品の管理が厳重で指紋認証であること、ICU の医療機器が1つのタワーで管理できるようになっていました。連絡方法も PHS ではなく、手を使わない声認証のボイスエラーを使用していました。これは感染対策上からも汚染された手で電話を取ることがないため、有効な方法だと思いました。また、職場環境として労働者の負担軽減のために体位変換するためのリフト設置や白衣の交換システムなどを見ることもでき、新病院建設時の参考にできることが多々ありました。

看護教育においてポートランド大学看護学部のシミュレーション教育を見学しました。看護教育も日本とアメリカでは違うため、学生の意識の違いがあると感じます。このシミュレーションは実践能力を養うことができ、多重課題にも対応できる内容でした。学生のうちにこのようなトレーニングを受けるので、日本の新人とはスタートの時点から違うこととマグネットホスピタルでのレクチャーがここで一致しました。

AMR 救急指令センターでの見学では、行政が運営しているのではなく、民間の企業であることを恥ずかしながら初めて知りました。テレビではアメリカの ER などを取り上げた番組で AMR を見ることはありました。

が、実際の司令室や救急車の出動体制などを知ることができました。私は日本と同じに消防署があり、そこから救急車が出動すると思っていましたが、ステーションはなく、街頭で待機し、そこから出動する体制であること、911コールがあると救急車、消防車両方が出動するなど改めてアメリカの救急を学びました。

今回の研修を通し、短期看護研修ではありましたが、管理研修に参加する前にアメリカの医療看護について理解することができました。看護職がアメリカのように確立され、日本のチーム医療が横並びになって患者主体の医療提供ができるまでにはまだまだ遅れているのだと改めて感じました。日本では見ることがなかった様々なシステムを今後の管理にも役立てていけることが多かったので取り入れていきたいと思います。また、機会を作り今度は看護管理についても学んでみたいと思っています。海外旅行は一生行かないと思っていた私でしたが、今回の研修でもっと多くのことを思えたので一歩前に成長できたと思います。

最後にこのような素晴らしい研修に参加させてもらい研修助成を受けさせていただき、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。